

県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議 設立趣意書

全国的に医師不足が問題となっているなか、本県における医師数は全国平均を下回り、医師の地域偏在や産婦人科医、小児科医等の不足など、本県の医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。

一方で、軽症者が救急車を利用し、あるいは自分の都合で夜間や休日に救急病院を受診すること、大病院を志向することなどの患者の受診行動は、重症患者等に対する医療の提供に支障を来たすだけでなく、勤務医の業務の過重負担を招き、医師不足を招く要因となっているとも指摘されています。

したがって、県民が必要な医療を適切に受けながら、地域で安心して生活していくためには、県民も医療の一方の担い手であるという意識のもと、自らの健康は自分で守るとの認識や相互に信頼できるかかりつけ医を持つこと、症状や医療機関の役割分担に応じて受診することなどが求められています。

このような意識で県民が、医療従事者や行政関係者と共に一致団結して行動に移すことこそが、県民自身の生命と健康を守り、ひいては地域医療の危機を希望に変えることにつながると考えます。

このため、保健医療・産業・学校関係団体等や行政等が一体となって、全県的に地域医療体制づくりを推進する「県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議」を設立するものです。

平成20年10月31日

県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議設立発起人

発起人代表	岩手県知事	達 増 拓 也
発 起 人	岩手県医師会	会 長 石 川 育 成
	岩手県商工会議所連合会	会 長 永 野 勝 美
	岩手医科大学	理事長 大 堀 勉